

●都市計画事業の先進地を視察し、見識を高め事業の促進を図ることを目的として、令和元年11月13～15日に新潟県及び宮城県を12名（市町村職員9名、県職員3名）で視察しましたので報告します。

## 糸魚川市駅北大火からの復興まちづくり（糸魚川市）

平成28年12月に発生した大火からの復旧・復興について



市道拡幅・無電柱化



防災広場整備



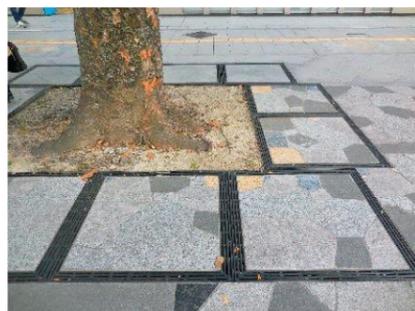
復興市営住宅整備

## 居心地が良く歩きたくなるまちづくり（仙台市）

「社の都」のシンボルである「青葉通」及び「定禅寺通」の魅力向上のための道路空間の再構成と利活用について



車道削減による歩道拡幅



ケヤキの保全・歩道デザイン



テーブル・椅子の設置による歩道空間

## 中越沖地震からの復興のまちづくり（柏崎市）

平成19年7月に発生した中越沖地震からの復旧・復興について



復興のシンボル「文化会館アルフォーレ」



防災拠点である都市公園



市役所等拠点施設を駅前に集約

## 路面電車南北接続事業の完成

富山市活力都市創造部路面電車推進課 中野 昭仁

富山市では、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進しており、そのうち、公共交通活性化の取り組みとして、平成18年4月に全国初の本格的LRTとなる「富山ライトレール」の開業、平成21年12月には市内電車の環状線化、さらに、平成27年3月には市内電車の新幹線富山駅高架下への乗り入れ開始など、様々な施策を着実に進めてきました。

そして、令和2年3月21日には、本市のコンパクトなまちづくりにおける大きな到達点である路面電車の南北接続が実現しました。



富山駅路面電車南北接続開通式（R2.3.20）



事業概要図



南北接続後の運行

## 富岩運河環水公園の誘客促進の一工夫について ～新たなフォトスポットの整備～

富山県都市計画課区画整理・公園係 岩井 慎太郎

路面電車南北接続事業は、富山駅南側を運行する富山軌道線（市内電車）と北側を運行する富山港線（旧富山ライトレール）を富山駅の高架下で接続するとともに、富山駅の高架下に高質でバリアフリーに対応した停留場を設置するものであり、第1期事業として、北陸新幹線開業にあわせて南側の市内電車を新幹線高架下まで延伸しました。

その後、在来線の高架化に伴い、北側の富山港線を在来線高架下まで延伸する第2期事業が完成し、新幹線や在来線から路面電車へのスムーズな乗り換えが可能になるなど、富山駅における交通結節機能が一段と強化されました。

さらに、南北直通運行の開始や低廉な均一運賃が実現したことで、利用者はこれまでと同じ料金で、富山駅の南北を乗り換えなしで移動できるようになり、通勤・通学利用者はもちろん、買い物客や観光客などの利便性も大幅に高まりました。

路面電車の南北接続により、これまで鉄道で分断されていた富山駅南北の市街地の一体化が図られるとともに、富山駅を中心とした全長約15kmのLRTネットワークが形成されたことで、中心市街地へのアクセスや回遊性が飛躍的に向上し、中心市街地の賑わい創出や商業の活性化、高齢者の外出機会の増加など、市民生活や経済活動においても大きな変化が生まれることが期待されています。



南北直通運行する路面電車（富山駅北口）



富山駅停留場

富岩運河環水公園は、とやま都市MIRAI計画のシンボルゾーンとして水辺空間の豊かさを大切にしながら整備された都市公園です。これまで県内外はもとより、国外からも多くの方々にご利用いただいています。

公園内には、雄大な立山連峰の眺望や、世界で最も美しいと評判のスターバックスコーヒーなど、たくさんのフォトスポットがありますが、県では公園の誘客促進の一工夫として、園内に新たなフォトスポットを整備しました。右の写真は、公園のシンボルである天門橋の橋台部分を利用した「ウォールアート」（令和元年7月に設置）で、下の写真は門型フレームに花の苗をいっぱい敷き詰めた立体花壇（令和元年9月から約2ヵ月間設置）です。スマートフォンを片手に、公園内のフォトスポットを楽しむ方が多く見受けられるようになりました。

今後も、公園の魅力を一層高められるように、様々な取り組みを行っていきます。

